

陳情番号	127
付託先委員会	総務文教委員会
審査結果等	

令和6年2月9日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

住所 浜田市松原町

氏名 西川 真午

## スケート場調査報告書の検証を求める陳情について

### 【陳情の趣旨】

#### 1 願意

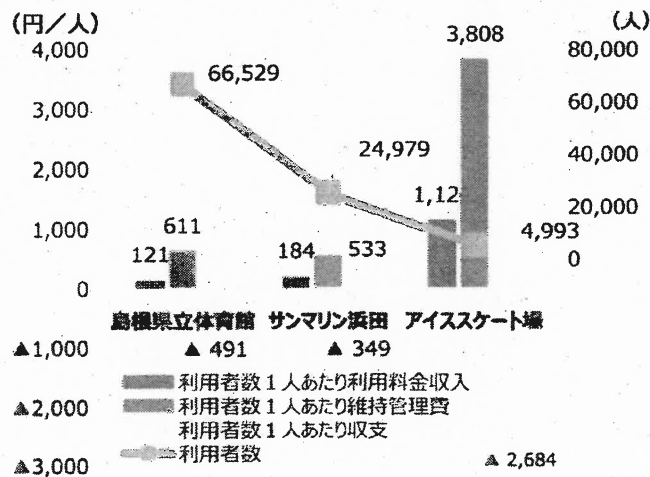
令和6年1月24日の総務文教委員会および浜田市スポーツ推進審議会において示された「サン・ビレッジ浜田アイススケート場の活用のあり方に関する調査検討業務報告書」(以下、スケート場調査報告書という)について、スケート場廃止ありきで作成されたと思われる部分があり、この報告書を踏まえて示された『屋内人工芝施設(または体育館施設)として機能を転用する』という浜田市の方針(案)は正当性を欠くと思われます。このスケート場調査報告書の内容について、スケート場廃止を前提として作成されたものではないのかを検証し、委託料4,999,500円の正当性についても合わせて検証することを議会に求めます。

#### 2 理由

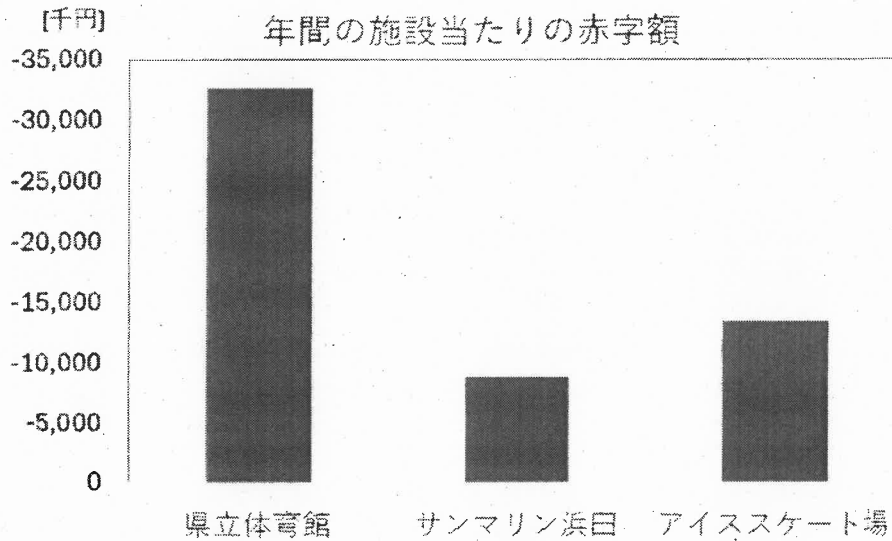
スケート場調査報告書の中で、廃止を前提としたと思われる部分を以下に示します。

##### ① 市内類似施設(屋内運動施設)との収支構造比較(本編P-25、概要版P-10)

《令和4年度・利用者1人あたりの収支構造》

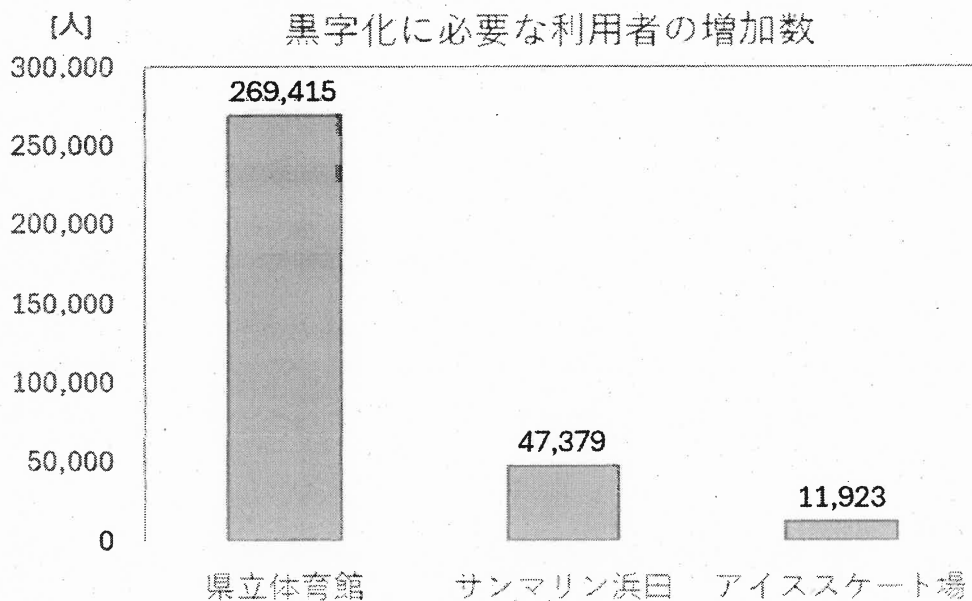


上記のグラフを示し、スケート場は『他の屋内施設に比べて大幅な赤字が発生する構造』と結論付けているが、このグラフは利用者1人当たりの数値を示したもので、グラフ中の【利用者数】に【利用者数1人あたり収支】を乗じて求めた、【施設当たりの収支（赤字額）】をグラフにすると以下ようになる。



これを見ると、大幅な赤字が発生する構造となっているのは県立体育館であることがわかる。

さらに、この【施設当たりの赤字額】を【利用者数1人あたり利用料金収入】で除して求めた【黒字化に必要な利用者の増加数】をグラフにしたものを以下に示す。



このグラフより、施設の黒字化には県立体育館では約27万人の利用者の増加が必要で現実的ではないが、スケート場は約1万2千人の利用者の増加で黒字化でき、これは過去の実績からも実現可能な数字であり、最も収益性が高い施設とすることができる。(そもそも公共のスポーツ施設に収益性は求められていない)

以上のように、収支構造として示されたグラフは、実態に反してスケート場の収支を悪く見せる印象操作に使われたと思われる。

② アンケート結果（本編 P-34～45、概要版 P-2 ④、⑤）

- ・ ウェイトバック集計でスケートの経験や関心の少ない層に重みを付けている。
- ・ スケート場以外の施設としての整備を望む層へ聞いた『どのようなアクティビティ（活動）ができるか』の設問への回答を、注釈無しで概要版に大きく載せている。
- ・ 中高生の 55.9%が『スケート場として残す』と回答しているが、考察まとめには反映していない。
- ・ 利用団体（カーリング、フィギュア）の意見が考察まとめには反映されていない。

③ ライフサイクルコストシミュレーション（本編 P-50, 53, 56、概要版 P-2 ⑥）

- ・ スケート場の光熱水費が高過ぎる。
- ・ スケート場の利用者数が過少で、他施設の利用者数が過大。

④ スケート場に対するネガティブな誇張表現が多い

「大幅な赤字が発生する構造」

「県内では唯一ではない」

「経済効果は極めて少なく、限定的」

「存在感の薄さ」

「厳しい事業環境」

「大幅なコスト超過が想定される」

「収益確保・利用者拡大のハードルは高い」

「浜田市民の利用は非常に限られている」

「浜田市民のための施設として有効に機能しているとは言い難く、利用実態がともなっていない」

「集客効果が浜田市内に及ぼす経済効果は極めて小さい」

⑤ スポーツ推進審議会での教育長の発言

1月24日に開催された浜田市スポーツ推進審議会を傍聴した際、会の最後の教育長の発言に耳を疑った。その発言の一言一句は以下の通り。

「今回、この報告をお願いするにあたって、サンビレッジの現在の建物の躯体を生かして、なるべく投資が少ない中でどういうことができるかということを前提に考え

ていただいた結果、スケート場として残す場合もあれば、躯体を残した上で地面を板張りや人工芝やコンクリートを考えられ、どういったことができるかも議論をしていただきました。

で、基本はあその周りには人工芝のサッカー場があるという状況の中で、一体的なスポーツ的な活用をした方がいいだろうという、そういうイメージの中で作り上げているものです。したがって、建物は確かに「スポーツだけで限定する」ではなくて、いろんなことを考えた上でという意見の広がりには当然あるんでしょうけども、今回の報告書については、そういったことを前提に報告を作っていたものでありまして、ではそのスケート場とその他の整備をしたときに、この案では、板張りか人工芝がいいのではないだろうかというような方向をださせていただいたということで、じゃあそれを使って具体的に何をするというのではなく、そこは広がりを持っていいんだろうと思っています。その中でスポーツだけではないということ言うと、今意見の中で出たように、子どもたちがとにかく雨が降ってもそこで何かできると、というようなこともあるでしょうし、そのあたりは今日のところは最初に報告書を報告させていただいて、いろんなご意見をいただきましたので、そこは限定したものではありませんのでご承知いただけたらと思います。」

※上記の発言内容については、当日事務局が撮影した動画で確認することが可能と思われるので、ぜひご確認していただきたい。

以上より、スケート場調査報告書については、廃止を前提として作成されたものではないかと思われる部分が多くあります。

令和6年1月24日の総務文教委員会でもスポーツ推進審議会でも、委員からはスケート場の廃止に否定的な意見が多く出されています。

スケート場調査報告書の内容について十分に検証していただき、市民の声に耳を傾けて市民が納得のいく結果を導かれることを議会に求めます。